

学科名	ミュージックアーティスト科
コース名	プレイヤーコースギター専攻
授業科目	専攻実技3
必選	必
年次	2年次
実施時期	前期
種別	実習
時間数	30
単位数	1
担当教員	篠崎保
実務経験	有
実務経験職種	ミュージシャン、プロデューサー
授業概要	各人の個性を伸ばす実技レッスンです。
到達目標	各個人の思考に沿った専門技術を歴史的背景も含めて学び、考察力を習得する。作品や物事について自分の頭で考え、自分自身の考え、もしくは解答を持つことを身につける。「どういうつもりですか？」を常に考え、それを作品やパフォーマンスに生かすことで技術を向上させる。
授業方法	基本は少数人数での個人レッスン形式で、全体ディスカッションも適宜採用し、2年次は基礎的必須技術を発展させ、表現力のある演奏の習得を中心に進行する。
成績評価方法	試験60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)
履修上の注意	専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。
教科書・教材	譜面、音源、映像等適宜用意。 ギター、チューナー、シールド、ピック等の楽器や必需品を各自用意。 カポタストと替えの弦は必ずギターケースに入れておくこと。

授業計画	
第1回	1年次の確認と復習
第2回	カポタストを使用した異なるヴォイシングでの演奏
第3回	16分音符のカッティング
第4回	実践的なスケール、ミクソリディアンとドリアンを、ミクソリディアンをメジャーペンタのポジションで、ドリアンをマイナーペンタのポジションで見する方法。その1。
第5回	単音ミュートバックイング演奏。メロディを意識したバックイングを考える
第6回	作品制作実例 作曲のコツとリードシートの書き方 授業内で作曲を行い、リードシートにまとめる。
第7回	作品制作1曲目その1。アドバイスと技術説明。 ※作品：ギター練習に特化したものか、曲としての物かは各個人の思考やレベルに寄る。
第8回	1曲目その2。
第9回	2曲目その1。アドバイスと技術説明。
第10回	2曲目その2。
第11回	3曲目その1。アドバイスと技術説明。
第12回	3曲目その2。
第13回	パンチインとパンチアウトの処理について。
第14回	楽曲発表とデモンストレーション1
第15回	楽曲発表とデモンストレーション2

学科名	ミュージックアーティスト科
コース名	プレイヤーコースベース専攻
授業科目	専攻実技3
必選	必
年次	2年次
実施時期	前期
種別	実習
時間数	30
単位数	1
担当教員	高野清宗
実務経験	有
実務経験職種	ミュージシャン、作編曲家、プロデューサー、ディレクター
授業概要	各人の個性を伸ばす実技レッスンです。
到達目標	ベース演奏を軸とした「卒業作品」の制作スキルを体得することを到達目標とするが、発表方法は4種（ビジネスプランに付随したデモ作品、RealDreamsイベント、企業との共同研究成果、作品）のいずれかで、課題を学生と共に検討し、個別最適化されたフィードバックを掲示し、目標を達成してゆく。経済的基盤または社会的基礎における再現性、継続性が見込めるということが本授業における最上位目標となる。
授業方法	楽器のチューニング、ウォーミングアップ等の準備をしたうえで、練習フレーズでのスキルアップ、読譜による既存ベースラインの習得と初見演奏の訓練、リードシートを見てオリジナルのベースライン作り等をおこなう。授業外で作成した自作曲のブラッシュアップ、アンサンブル授業やショーケースでの担当曲の演奏アドバイス、自主的なバンド活動等における演奏のアドバイスもおこなう。
成績評価方法	試験60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)
履修上の注意	専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。
教科書・教材	講師作成のリードシート、課題曲のリードシート。

授業計画	
第1回	16分音符主体のフィンガー奏法。
第2回	チャーチモードスケールを2種類のポジション（人差指から、小指から）で弾く。
第3回	16分音符主体のピック奏法。
第4回	オルタードテンション、分数コードの分散和音。
第5回	16分音符主体のスラップ奏法。
第6回	読譜（初見演奏）の練習その1。スロー、ミディアムテンポ。
第7回	読譜（初見演奏）の練習その2。アップテンポ。
第8回	リードシート初見でのベースライン作りその1。ルートを中心としたアプローチ。
第9回	リードシート初見でのベースライン作りその2。セクションを意識したアプローチ。
第10回	自作曲または課題曲のベースラインのブラッシュアップその1。
第11回	自作曲または課題曲のベースラインのブラッシュアップその2
第12回	授業内理解度チェックと演奏発表。
第13回	授業内理解度チェックと演奏発表における各自の問題点の修正。
第14回	速いパッセージのアドリブ演奏。
第15回	前期のまとめ。

学科名	ミュージックアーティスト科
コース名	プレイヤーコースドラム専攻
授業科目	専攻実技3
必選	必
年次	2年次
実施時期	前期
種別	実習
時間数	30
単位数	1
担当教員	堀越、Gaku
実務経験	有
実務経験職種	ミュージシャン
授業概要	各人の個性を伸ばす実技レッスンです。
到達目標	「卒業制作」を作るスキルを体得することを到達目標とするが、4種の発表方法（ビジネスプランおよびデモ作品、Real Dreams 2023、共同研究成果、作品）のいずれかで、課題を学生と共に検討し、個別最適化されたフィードバックを提示し、目標を達成していく。経済的基盤または社会的基盤における再現性・継続性が見込めるということが本授業における最上位目標となる。
授業方法	授業は練習パッド、ドラムセットを使用して行います。各テーマに沿った課題のレクチャー、練習、アドバイスをし、個別最適化された課題を発見します。
成績評価方法	試験60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)
履修上の注意	専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方を持ち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。
教科書・教材	配布プリント、講師作成リードシート、ドラムスティックは各自で用意すること

授業計画	
第1回	日々のウォーミングアップ講座 スタジオ時間の使い方
第2回	バスドラムのルーディメンツ
第3回	バスドラムの強化、ダブル、ツインペダル
第4回	ヒヤリングし疑問点の解消、またはオリジナル作品のドラムアレンジ
第5回	アレンジのヒントになるビートの作りかた
第6回	オリジナル作品をクリックに合わせて演奏する
第7回	オリジナル作品をマイナスイワンで演奏する
第8回	中間発表と理解度チェック
第9回	途切れないグルーブ演奏方
第10回	キメの作り方と演奏テクニック
第11回	オリジナル作品をクリックに合わせて演奏する その2
第12回	オリジナル作品を マイナスイワン音源に合わせて演奏する その3
第13回	レコーディング、発表に向けての準備 機材紹介
第14回	レコーディング または 発表
第15回	前期まとめ

学科名	ミュージックアーティスト科
コース名	プレイヤーコースピアノ・キーボード専攻
授業科目	専攻実技3
必選	必
年次	2年次
実施時期	前期
種別	実習
時間数	30
単位数	1
担当教員	田中綾美
実務経験	有
実務経験職種	ミュージシャン
授業概要	各人の個性を伸ばす実技レッスンです。
到達目標	「卒業制作」を作るスキルを体得することを到達目標とするが、4種の発表方法（ビジネスプランおよびデモ作品、Real Dreams 2023、共同研究成果、作品）のいずれかで、課題を学生と共に検討し、個別最適化されたフィードバックを提示し、目標を達成していく。経済的基盤または社会的基盤における再現性・継続性が見込めるということが本授業における最上位目標となる。
授業方法	授業は一人一台キーボードを使用して行います。各テーマに沿った課題のレクチャー、練習、アドバイスをし、個別最適化された課題を発見します。
成績評価方法	試験60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)
履修上の注意	専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。
教科書・教材	配布プリント、講師作成リードシート

授業計画	
第1回	ピアノの音色でバラード曲の演奏について、適切なボイスニングやアプローチを理解出来る。
第2回	1回目授業にて習得した技術を用いて、ピアノのみ演奏の場合の適切なバックギングスタイル（バラード用）で実際に演奏出来る。
第3回	1、2回目授業にて習得し技術を用いて、バンド内演奏の場合の適切なバックギングスタイル（バラード用）で実際に演奏出来る。
第4回	ピアノの音色でRock曲の演奏について、適切なアプローチを理解出来る。
第5回	4回目授業にて習得した技術を用いて、ピアノ音色で様々なバックギングパターン（Rock風）で実際に演奏出来る。
第6回	オルガン、ストリングス等Rock曲に合わせてシンセサイザーを実際に演奏出来る。
第7回	ピアノの音色でFunk曲の演奏について、適切なアプローチを理解出来る。
第8回	7回目授業にて習得した技術を用いて、ピアノ音色で様々なバックギングパターン（Funk風）で実際に演奏出来る。
第9回	Clavinet、エレクトリックピアノ等Funk曲に合わせてシンセサイザーを実際に演奏出来る。
第10回	ピアノの音色でJazz曲の演奏について、適切なアプローチを理解出来る。
第11回	10回目授業にて習得した技術を用いて、ピアノ音色で様々なバックギングパターン（Jazz風）で実際に演奏出来る。
第12回	エレクトリックピアノでのJazz風バックギングを学び、11回授業で習得したピアノ音色でのバックギングとのボイスニングの違いを理解出来る。
第13回	1コード（メジャーキー）のアドリブ演奏が出来る。
第14回	1コード（マイナーキー）のアドリブ演奏が出来る。
第15回	8～14回目に習得した技術を元に、自由曲にて授業内発表会を行う。